

長久手で東西文化が交流

ダニー・シュエッケンディックさん

ジャズの重要な要素の一つとして私は常に電氣的でない、生の音を出す楽器を使うことをいつも心がけています。響きあう弦と木と皮からできたその音は、人間の体の中に自然に心地よく調和すると信じ、また確信しています。当然、それらの音色から作り出される異文化の音楽は私を引きつけました。インド古来の楽器、シタールとタブラで演奏されるラーガは初期のころから好きで、アイルランドやペルーの民族音楽、インドのガムランにも興味を持ちました。また、中国のオーケストラと、しばらくの間、一緒に活動したこともあり、日本のお寺では笙やハーモニカの演奏も行いました。

そして、もう一つ私が興味を持ったのは琴や尺八でした。この楽器については私が尊敬していたマッコイ・タイナーによって演奏された曲を始めて聞き、それ以来、面白い日本のレコードを見つけて購入したものです。

私が日本に来たとき、日本の童謡、古典音楽などとジャズを合奏する機会があり、演奏の中で「赤い靴」「浜辺の歌」「雪やこんこ」、などを発表してきました。先回の長久手文化の家で行われたコンサート“グレース・イン・モーション”では、遂に日本の古典芸術の伝承者らと合奏コンサートをする機会を頂きました。共演者である、西川流の家元の娘さんである西川まさ子氏の日本舞踊と、ジョン・海山・ネプチューン氏（尺八の師匠）の尺八演奏、そして私のジャズピアノとの競演の計画を聞いたとき、驚きと共にとても興奮しました。

今回、私は日本の伝統音楽とジャズを合わせるという新分野に取り組みました。その作業はとても楽しく満足できるものでした。しかし、それ以上に感動的であったのは西川さんの踊りです。

彼女は日本舞踊に即興演奏ならず“即興舞踊”を取り入れ、この挑戦はまさしく革命的なものでした。

西川さんは従来型の型にとらわれず、その自由で純粋な表現は、自分にとって素晴らしい経験となりました。更にジョン氏が加わることになりこの共演は、実に豊かなものになりました。

今後もこのメンバーで日本の歌やスタンダードジャズなどを同様に取り入れていこうと思っています。もちろん、これらの曲は西川さんの華麗で力強い「舞」と共に演奏されます。

“グレース・イン・モーション”はまだ発展途上です。この先もっと洗練されていくでしょう。私はそれを楽しみにしています。勿論、私はジャズマンとしての本来の仕事も充実させていきます。この秋に初のCDを発売する予定です。内容は皆さんに馴染みがある、スタンダードジャズと童謡を交えた楽しい企画になっております。

私は今回このコラボレーションの一員であることを大変うれしく思います。そしてこの企画を支えてくださった長久手町、並びに各関係者の方々に心よりお礼を申し上げます。

ダニー・シュエッケンディック

<http://www.donny-jazz.com/>